

一人で寂しく暮らしているのに、食事を差し入れすると、「ごはんくらい自分で作っているから大丈夫」と断る。

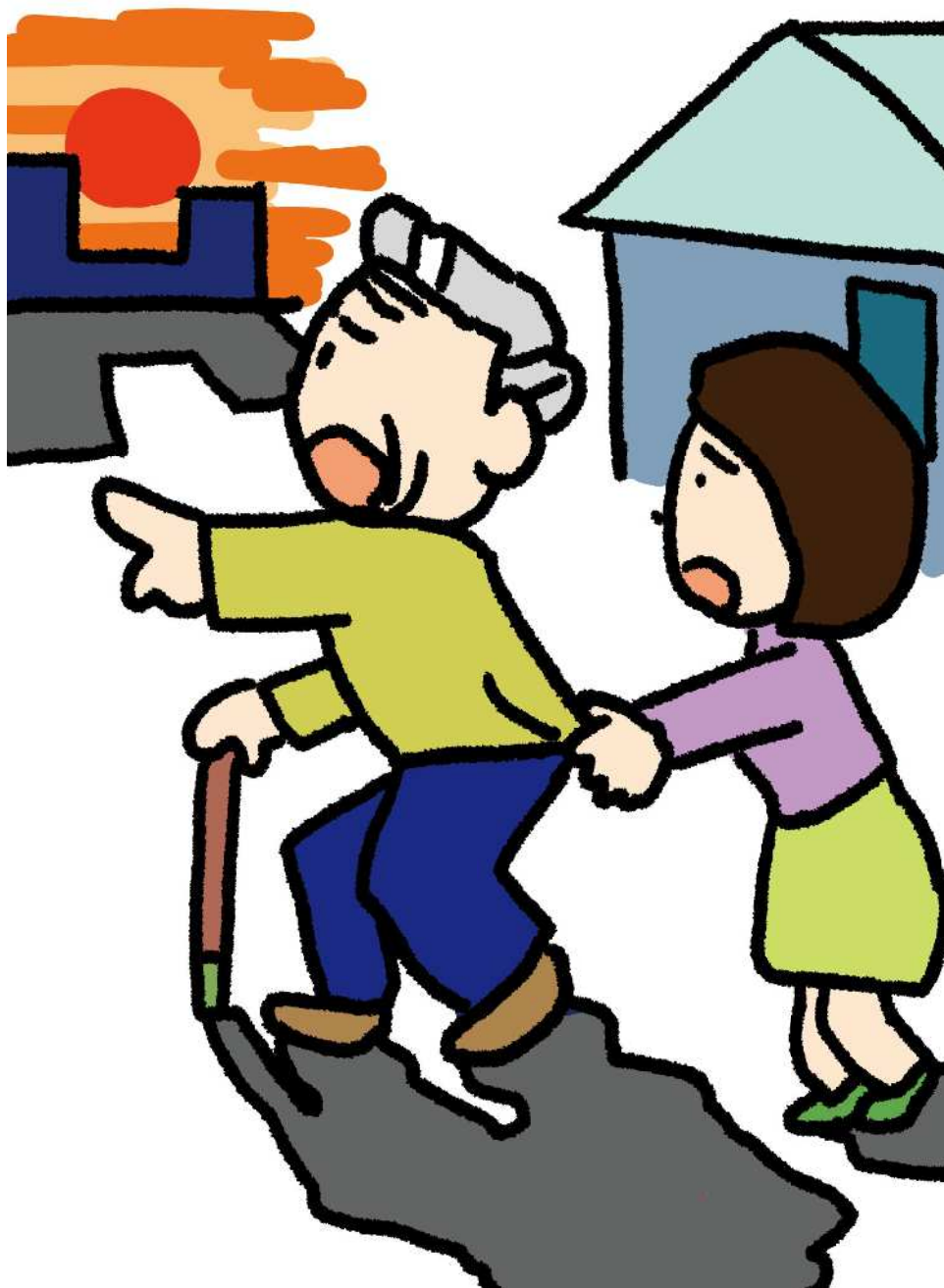


ごはんは食べているわよ。  
自分のことはちゃんとやっているんだから。

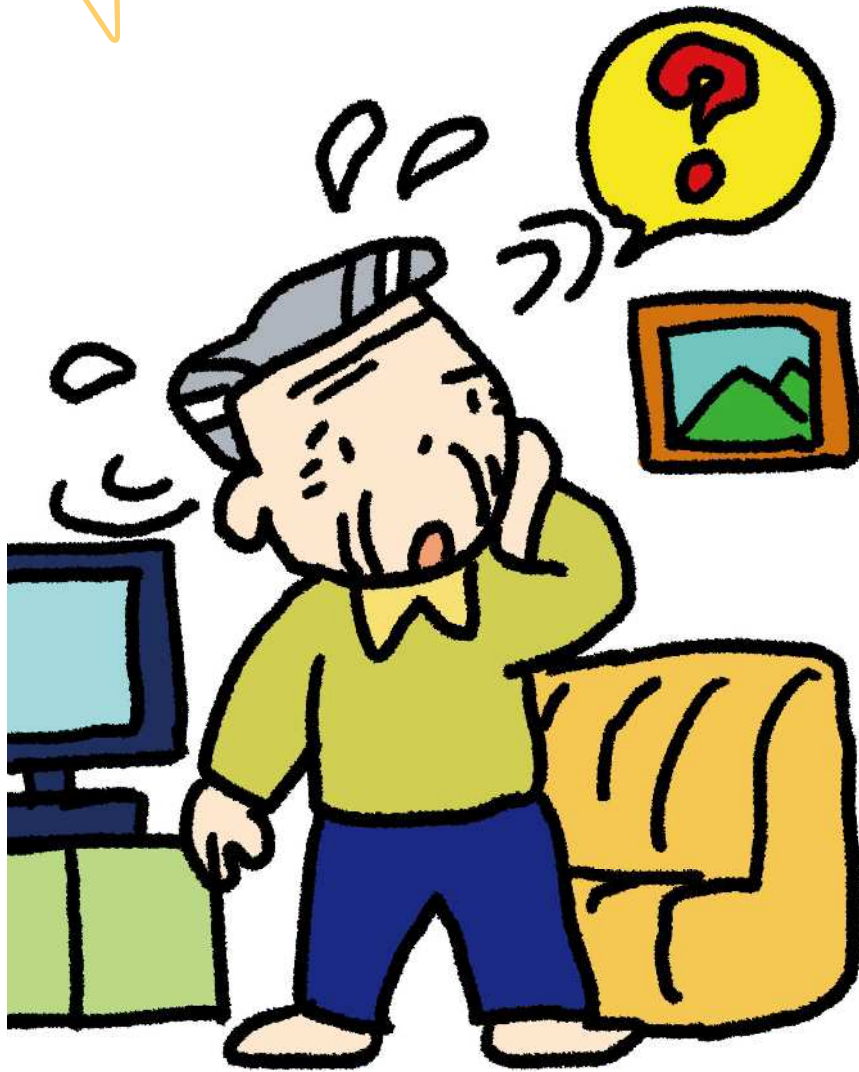


作ったかどうかは覚えていませんが、少し前まできちんとできていました。普段通りのことはできて当然と思っていますが、料理が作れなくなっています。

夕方になると「家に帰ります」と  
自宅から出て行こうとする。



あれ？ここは自分の家じゃない。おかしいな。  
とにかく帰らなきゃ。



自分が今どこにいるか急にわからなくなり、記憶に残っている以前住んでいた家に帰ろうとしています。



夜中にトイレに行こうとして、  
廊下や部屋で排尿してしまう。



トイレはどこ？  
わからない。

間に合わない！



暗い廊下でトイレを見つけにくくなり、電気の付け方などもわからず、やむなく廊下や部屋の隅で排尿してしまいます。

「今何時?」「ごはんまだ?」などと同じことを繰り返すので、「さっきも言ったでしょ」と返すと「そんなことはない」と怒り出す。



なんだかよくわからなくなりました。

おかしくなっちゃったのかな。でも、不安だから教えてほしい。



新しい記憶が残らないので、聞いたことすら覚えていません。不安が強いため、何回も聞いてしまうこともあります。



毎日カレーを作るので、「またカレー？」  
と言うと悲しそうな顔をする。



あなたがカレーが好きだから作ったのに。  
毎日毎日あなたのことを考えて一生懸命  
作っているのよ。



作ったことを忘れてしまいますが、息子のために  
料理を頑張っています。それをむげに否定され  
ると悲しい気持ちになります。

毎日同じ時刻に図書館に出かけ、同じ時刻に帰って来るけど、図書館ではボーっとしているみたい。



毎日図書館に行って、  
読書しているんだ。

図書館は  
居心地がいい。



毎日同じ時刻に、自信を持ってできることをする  
ことが大きな安心になっています。



だんだん物が増えてきたので、片付けようとすると「余計なことをしないで」と怒り出す。

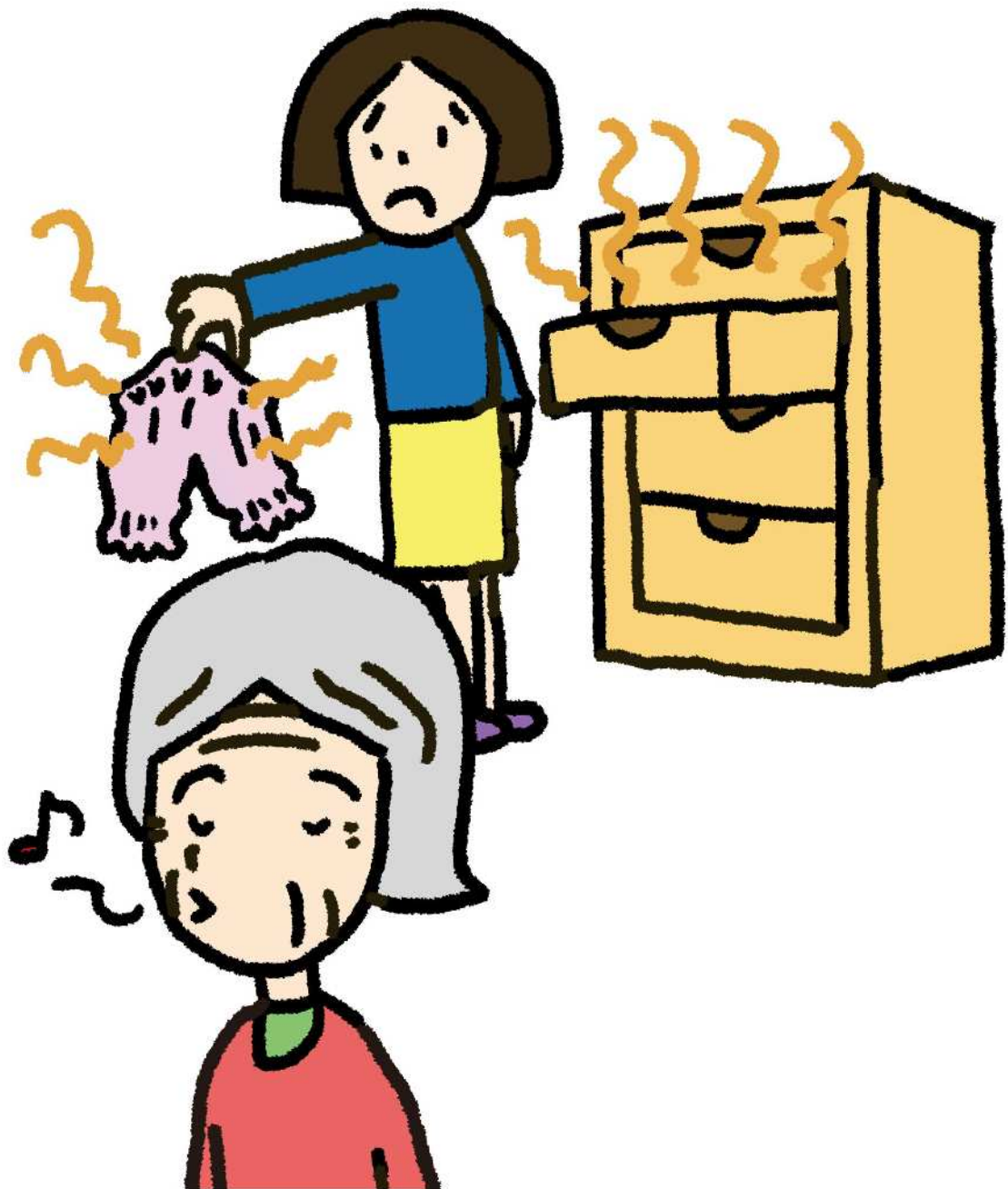


全部私の大切な物だから、触らないで!



どう整理して何を捨てたらいいのか、わからなくなっています。しかし、自分の物は自分で片付けたいという思いが強いのです。

汚れた下着をダンスに隠して、それを  
「知らない」ととぼける。



下着が汚れちゃった!  
どうしよう。

こんなこと、誰にも  
知られたくない。  
隠しておこう。



汚れた下着をどうしていいか分からず、怒られないように隠してしまいます。そして、隠したことを忘れていきます。



ズボンの上に下着をはき、  
バラバラの靴下をはいている。



ちゃんと着ているつもりなのに、  
この服が着にくいから悪いんだ。



着ること自体はできますが、着る順番や左右の  
違い、場面に応じた服に着替えることが難しく  
なります。

病院に行くよう勧めると  
「バカにしないで!」と怒り出す。



どこも悪くなんか  
ないわ!

もし病気が見つかったら怖いわ。



何かおかしいことはわかっていますが、まさか自分がそんなはずはないと、自分に言い聞かせています。